第44回 国分寺稲門会

平成28年度 総会

平成28年6月5日（日）16：30～21：00於「龍栄」にて、総会、第二部以降・講演会、ピアノコンサート及び懇親会が出席者87名で開催。眞宅康博の司会で開会、清水　元会長の挨拶、来賓紹介、議事は平成27年度事業報告、会計、監査報告、28年度事業案、同予算、役員選任で大橋忠弘、野部明敬、黒川清知の担当役員より夫々説明、全て承認されて終了。鈴木嘉久地域担当部長より大学の現況等の報告、記念品販売について吉松峰夫担当よりの案内で総会は終了。第二部は大橋忠弘司会で竹村まさみの「早稲田の栄光」のピアノ演奏で華々しく幕を開け、佐々木伸氏の「拡散するイスラム国の脅威、日本人もテロの標的に」の講演、竹村のジャズピアノ演奏、中山斌雄の司会で懇親会に入り、大島正敬府中校友会会長、井澤邦夫国分寺市長、藁谷友紀早稲田実業学校校長、宮西雅昭三田会副会長の挨拶と続き、谷田成雄相談役の乾杯で、歓談に移る。新入会員、市内在校生、早稲田祭スタッフの挨拶等を終え、木村　徳のリードで校歌斉唱・エール交歓、小野洋一郎の閉会挨拶でお開きとした。

[来賓]

鈴木嘉久早稲田大学管理担当部長／藁谷友紀早稲田実業学校校長・早稲田大学学長代理、同村上裕二事務部長／井澤邦夫国分寺市長／渡邊恵夫、宮西雅昭国分寺三田会副会長／大島正敬府中校友会会長・校友会組織委員長、同橋本美紀常任幹事／扇田正俊国立稲門会会長、同鈴木幸雄副会長／石井嗣剛小金井稲門会副会長、同皆川保則会計幹事／栗原政博小平稲門会副会長、同小山雄一郎副幹事長／森山善弘立川稲門会幹事長、同佐竹茂市郎業務幹事／小島　弘西東京稲門会副会長、同高橋隆門副会長／當間昭治東村山稲門会会長、同大内一男副会長兼事務局長、同池田孝、吉田　勝副会長、同松永常尚
講演会講師 佐々木　伸

[会員]

青木壮司、浅野道博、阿部芳博、安斎篤史、安藤康雄、飯塚　正、石田康博、石田雅子、江口和俊、敦子夫人、江連孝雄、大橋忠弘、美紀子夫人、大矢康一、小田恵介、小田切晏彦、小田切三千代、小野洋一郎、庸子夫人、木俵康之、木村　徳、黒川清知、淳子夫人、小柴和正、許斐史郎、小林　昭、島崎幸男、清水　元、眞宅康博、陶久　清、高橋幸雄、竹村まさみ、舘　外博、田中康義、邦子夫人、谷口和典、段野幹男、常見太郎、中村俊雄、中山斌雄、野部明敬、早川　守、林紀久子、原俊男、日置憲二郎、広瀬明夫、廣田　廣、昌子夫人、増本千明、松友　了、丸山哲平、宮坂尚利、寿美子夫人、谷田成雄、矢地宏一、柳田雅之、山岸信雄、山口慶一、山崎滋義、山田　孝、横川純子、吉松峰夫、米本　薫、渡辺啓介

[学生]

湯口朋拓、穴山達朗、川添新也、小泉菜緒　（以上敬称略）

（清水　元）

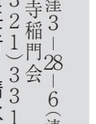
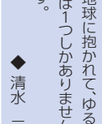
早稲田のあれこれ

青島

巨泉

「テレビとワセダ人」

昭和30年代「冗談工房」というプロダクションがあった。社長永六輔、専務阿木由起夫（野坂昭如）常務繁田裕司（三木鶏郎）監査役宇野誠一郎の顔ぶれ、三木の東大卒を除いて3人はワセダで学んでいる。永はNHKの「夢で逢いましょう」の企画、著書「大往生」（岩波新書）はベストセラー、野坂は「朝まで生テレビ」出演中、映画監督大島渚を殴ったことは有名、自分の体験を綴った「尖垂の墓」が広く読まれアニメ化もされた。、宇野は仏文科出身だが、音楽をやりたくて鶏郎に弟子入りした変わり種、永、野坂は中退組、しかし永は早稲田中、高校から大学に進学の生粋のワセダマン。
青島幸男は商学部に在学中、漫才の台本を書き放送作家に、大橋巨泉は新聞科中退、ジャズ評論家からテレビ司会者に、タモリは哲学科に在学中ジャズに熱中し、中退して独特の話芸が認められ、テレビ界に入った。長年続いた「笑ってもいいとも」の司会で人気者に、いまNHKの「ブラタモリ」では彼の好奇心と博識ぶりには驚く。
小沢昭一はあまりテレビではお目にかからなかったが、ラジオでの「小沢昭一的こころ」は39年間1万回を超す長寿番組となり、また放浪芸、渡世（てきや）芸術を全国を旅し収録した。


タモリ

野坂

これらの人たちはたとえ中退していても、自立精神溢れる早稲田カラーを充分発揮している。ほかの大学にない早稲田の特徴であろう。今の現役学生にその精神が引き継がれているだろうか。

（黒川清知）

国分寺稲門会28年度役員

役職名	氏名	学部／年度
会長	清水　元	昭和38年法
副会長	青木　壮司	40年政経
同	黒田　啓之	61年教育
同・会計幹事	野部　明敬	36年法
副会長	小野洋一郎	38年法
同	眞宅　康博	37年法
同	中山　斌雄	43年理工
幹事長	大橋　忠弘	47年理工
副幹事長	山田　孝	39年政経
同	丸山　哲平	平16年法
幹事・会計補佐	赤池　秀夫	43年政経
幹事	牛田　武	平元年工研
同	木村　徳	平7年政経
同	寺沢　和濃	36年法
同	中村　俊雄	45年商
同	日置憲二郎	43年政経
同	廣田　廣	32年文
同	嶺　仁	25年専通
同	吉松　峰夫	35年政経
同	小林　昭	42年商
同	江連　孝雄	48年商
同	増本　千明	平22年人科
同	※舘　外博	48年政経
同	※百瀬　道子	50年教育
監事	黒川　清知	30年政経
同	※田中　康義	35年政経
相談役	谷田　成雄	31年政経
顧問	山賀　理	34年法
同	小田切晏彦	35年文
同	※小林　好覚	18年専経

※印は新任

●発行所
国分寺市東恋ヶ窪3－28－6（清水元方）
早稲田大学国分寺稲門会
電話　042（321）3310
●編集及び発行責任者　清水　元

編集後記

◆今年は大型台風の上陸が多く、想定以上の大雨で多大な被害が出ました。世界各地も目を覆うような被害が報道されています。地球温暖化の影響でしょうか、大気中の二酸化炭素の減少・現代の生活／産業活動による温室効果ガスの排出量の増加等が主要因のようです。主要排出国もパリ協定を承認とのこと、批准、実効が急がれます。さて、急激な気候変動の1つの証として、日本の最高気温が1933年に山形市が40.8℃を記録して以来、実に74年間破られずにいたものが、2007年に熊谷市／多治見市が40.9℃を記録し、続く2013年には四万十市が41℃と、最近になり相次いで変動しました。地球は46億年前から、温暖化と寒冷化が数百万年単位で繰り返しているとのこと。人類の誕生は20万年前ですから、我々は小さな存在で、この上は、広大な宇宙・この地球に抱かれて、ゆるやかに身を委ねたいものですが、地球は1つしかありません。人が壊したらとしたら責任重大です。

◆清水　元

早稲田大学国分寺稲門会 会報

平成28年11月5日 No.63

http://www.kokubunji-tomonkai.net

巻頭言

国分寺稲門会・会長
清水　元

雑感

今年後半の2大行事の一つ、第6回国分寺寄席は無事盛況裏に終了致しました。

当会の目的の一つに「国分寺市民との交流・地域貢献」があります。本寄席は市民、校友を中心に毎回満席で、舞台と観客が一体となり、素敵な秋のひとときをエンジョイ致しました。落語で笑う事はリラックス効果、癒しのホルモン増や脳の活性化など、健康維持にも少なからず貢献しているのではと思います。

他方の稲穂祭は24回目を迎え、12月11日（日）16:30開場、16:50より中華料理・龍栄で開かれます。早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会（通称ワセフラ）の出演で、華やかな忘年会を企画しております。併せて恒例のオークション、ビンゴなども実施致しますので、一年の締めくくり、お互いに“ご苦労様”のこころをもって、共に懇親・団欒のひとときを過ごしたく、是非ご出席下さい。

さて、最近、月刊誌や週刊誌で早稲田vs慶應、三田会（vs稲門会）が相次いで取りあげられています。

早慶の関係は特別なもので、一般社会でいろいろな分野で比較され、学生／OB、OGも意識する関係にあります。『良きライバル』と言いますが、競争相手・コンペティターよりも、寧ろ日本語の「好敵手」が似合いの言葉ではないでしょうか、これは力量の釣り合った良い相手関係ということで、この日本語が好きです。在学中には、あの伝説の早慶6連戦という貴重な体験しました。今秋の六大学リーグ戦は早慶明での優勝争でしたが、残念ながら、早慶戦を前に勝率で明治が上回り、覇者・早稲田とはなりませんでした。

ところで、歴史を振り返ると、大隈重信と福沢諭吉先生の二人が最初に出会ったのは明治6年とのことで、大隈重信は、東京専門学校創立の際に福沢諭吉に大いに助けられたとのこと。その後、二人の交流は深まり、互いの家を訪問するほどになりましたが、二人とも新時代に適応するための学校が必要という一致した信念を抱いていたようです。

大隈重信は「明治十四年の政変」が影響して、翌15年の開校式には出られず、代わりに福沢諭吉が出席して祝辞を述べたことが、記憶にあります。

国分寺においても、国分寺三田会との交流は盛んで、良き好敵手としてまたは良きライバルとして、協力・刺激しあっています。

我々校友・卒業生は60万人と云われており、大きな存在で、校友会では組織化と加入促進に努めています。

校友の年齢構成は住所判明者資料では、60歳以上が43%、50歳代19%、40歳代21%、30歳代17%で、会員の老齢化、若手会員、女性会員の加入、増大が大きな課題になっています。

大学では、2002年入学生から、卒業時に校友会費の10年分の前納制度の採用や「大隈重信演説談話集」の配付など校友会組織の啓蒙や母校との連携など若手会員への働きかけを促進しています。第1回の前納制度が本年満期になりましたが、納入継続者は28%とのことで課題は多いようです。

平均寿命が男女とも80歳を超え、世界一の長寿国になりました。敬老の日には、100歳以上の人口が65,700人と増え、うち87%が女性で、男性は僅かの7,500人と報道されました。

私が卒業した1963年では全国に僅か153人であった100歳以上の長寿者が、1998年には1万人を超え、以後その数は連続して増えていますが、男女の差は歴然としてます。男性の一人として、原因究明、改善など進めて欲しいものです。

人間心配する事の80%は実際に起きないと云われています。「心配はない、何とかなる」の大楽観、小悲観と、まあまあのところでも満足する心で、残りの人生も過ごして行きたいと思います。

第24回 国分寺稲門会 稲穂祭 忘年会

●日　時　平成28年12月11日(日)　受付／16：30　開会／16：50
●会　場　中国料理「龍栄」
国分寺市本多2-3-1　TEL 042-321-0005
●参加費　会員6,000円　ご家族5,000円
＊年会費未納の方は 5,000 円ご持参ください。

プログラム
16：50　開　会
17：00　フラダンス（出演：早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会）
17：35　懇親会（オークション、ビンゴ、みんなで歌おう）
20：00　閉　会

早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会（通称ワセラフ）

国分寺オークション 恒例
眠っているお宝があれば是非お持ちください。ご協力を！

MY WASEDA

◆江連 孝雄

心のふるさとと早稲田

■ グリークラブとの出会い

私は、国分寺で生まれ、昭和44年に早稲田大学商学部に入学した。この年は、1月に、学生等が占拠した東大安田講堂への警官隊突入があり、その学生運動の激しさから東大等の大学入試が中止となる騒然とした時であった。入学後、立て看板と、拡声器の怒号の中を、学生運動には殆ど興味が無かった私は何をしようか迷い歩いていた。そんな時、中学校時代の恩師（早稲田出身）で、所属していたハンドボール部の監督であったH先生より、一枚のレコードが送られてきた。そのレコードには、「早稲田大学校歌、光る青雲、紺碧の空、早稲田の栄光」、の4曲が収録されており、歌っているのがグリークラブであった。その歌声に触発されて、私は、それまで合唱の経験はおろか、殆ど音楽そのものに縁が無かったが、男声合唱をやってみたいと思うようになり、グリークラブの門をたたいた。グリークラブは、学外に借り事務所を持ち、120～30名が所属する男だけの大所帯だったが、4つのパート運営や、全体の管理がとても良くできており、落ちこぼれそうな人間を取りこぼさない、綿密な練習体制（非常に厳しかったが）とフォローアップができていた。おかげで絶対音感とか、音楽に特別の素養を持っていない私のような初心者でも、音楽性豊かな部員に引っ張られて、意欲さえあれば、4年の間に何とか歌えるように（?）なるものであった。ここで学んだことは、「ハーモニーは、まず個人が正確に歌えること。発声は練習を通して合わせる事がまず重要だが、埋没しないこと。団体行動には規律が重要。」等々、世間知らずだった私にとって、その後の社会生活において重要なことを学んだ体験的学習の場であった。

ニューヨーク公演（筆者は一番左端）

■ アメリカ演奏旅行

グリークラブは、非常に多忙なクラブで様々な演奏活動を行っていたが、最も思い出に残っているのは演奏旅行だ。国内の演奏旅行は、東北から九州まで回わらせてもらった（もちろん鈍行列車で）。演奏会の準備では、各地の稲門会の皆様に大変お世話になり、今でも大変感謝している。稲門会の組織力がなければ、学生の力だけでは地方の演奏旅行はできなかったと思う。

そして、4年間で最も思い出に残る演奏旅行は、ニューヨークのリンカーンセンター主催の第3回世界大学合唱祭（世界中の16ヶ国の代表が参加）にノミネートされ、日本代表として、アメリカ合衆国へ1か月間の演奏旅行に招待されたことだ。昭和47年4月6日～5月5日の間、ハワイ、ロサンゼルス、セントルイス、フィラデルフィア、ボストン、ニューヨーク、ワシントン、サンフランシスコ等を回って、各地の大学や教会、コンサートホールで演奏会を行った。メインステージは、リンカーンセンター・フィルハーモニックホールとケネディセンターだった。ニューヨークに滞在した1週間の間に、ホワイトハウス、日本大使館、国連等にも訪問した。各地の演奏会では、概ね大好評を得たが、特にワシントンポストには、「清冽なハーモニー」と評された。宿泊は、大学の寮、ボランティアのホストファミリーの家、ホテル等であったが、中でも、ハーバード大学のキャンパスや学生寮には驚かされた。米国の豊かさを見せつけられる思いであった。この旅行で私の世界観は大きく変化させられたが、一生の宝となった。

■ 稲門会への参加

会社に入ってからは、その忙しさにかまけて、OB会には一度も参加した事が無かったが、60歳を間近にして、同期から再三誘われ、東京稲門グリークラブに参加することにした。（グリークラブOB会は、地域、年齢等でいくつかの団体に分かれて通常は活動している。OB会全体としての活動は、東西四大学、東京六大学の演奏会、稲門祭等。）新しい曲に取り組む練習は大変だが、練習後、先輩や同僚、後輩達と仕事を離れて飲めるのが楽しくて続けることができた。そして、現地の稲門会の後援で、台湾演奏旅行、インドネシア演奏旅行に参加するチャンスに恵まれ、夫婦で旅行を楽しむ事もできた。また、平成25年には、グリークラブOB会主催で、小林研一郎氏の指揮のもと、サントリーホール・大ホールに於いて行われた合唱祭にも参加した。

一方、地元の国分寺稲門会には、65歳で仕事を辞めると同時に入会させていただいた。カラオケ同好会に加入し、毎月、諸先輩の大変な元気をもらいながら楽しませていただいている。何かお役に立てればと思っていた矢先、昨年5月に病気が発覚し、10時間にわたる大手術を受けた。そのため約1年間稲門会への出席を休まざるを得ず、諸先輩の皆様に多大なご心配やご迷惑をおかけした。しかし現在、皆様の応援で、稲門会やグリークラブへの出席をなんとか再開することができるようになった。今は、日々健康に最大限留意して、稲門会の皆様と一日でも長く楽しくお付き合いができるよう、頑張って行こうと考えている。

東京稲門グリークラブ　第6回 定期演奏会（筆者は右から13番目）

［S48・商学部］

国分寺稲門会 有志

青木壮司　赤池秀夫　牛田武　江連孝雄　大橋忠弘　小田切晏彦　小野洋一郎　黒川清知　黒田啓之　小林昭　清水元　眞宅康博　舘外博　田中康義　寺沢和濃　中村俊雄　中山斌雄　野部明敬　日置憲二郎　廣田廣　増本千明　嶺仁　谷田成雄　山賀理　山田孝　吉松峰夫

（五十音順）

国分寺今昔　国分寺の歴史　その二十四

国分寺市で誇る偉大な作曲家信時潔

国分寺市に暮らした著名な音楽家に信時潔がいる。明治20年大阪北教会牧師の三男として生まれ、明治34年大阪市立市岡中学校に入学。同級生に画家の小出楢重や国立ガンセンター初代総長になった田宮猛雄、東洋言語学者石原純太郎がいた。

明治39年東京音楽学校器楽部チェロ科に入学する。大正9年文部省在外研究員として、ドイツへ留学し、ゲオルグ・シューマンに作曲師事。

帰国後、東京音楽大学と東京芸術大学の教員として作曲活動に従事する。「素晴らしいドイツ古典派からロマン派の音楽を日本で実現しようと試み、戦争という非常事態を音楽家としてどう生きるか悩み、生き延び、戦後の目覚ましい復興と戦後世代の活躍を見守って来た。

その生涯と、その時々に生み出された作品に改めて目を向け、耳を傾けてみると、何か捨て置けない、素朴な魅力を感じませんか?」と孫の信時裕子が述べています。

国分寺の地で

信時潔の長女熊谷はるの話によると「大正12年の関東大震災で被害を受け、大正13年巣鴨から国分寺村本多新田（現本多4丁目）に移居した。二人にとっては、初めて自分達で建てた我が家となりました。畠の中にぽつんと建った小さな家で、暮らしは、買い物や花、野菜作りを通じて、徐徐に土地の方々と馴染み、生涯の住宅となった。」そうです。

国分寺には、よく巣鴨から玉川上水の桜を見に来た時に訪れていた。当時は、蒸気機関車で武蔵境まで来て、玉川上水の土手に沿って国分寺駅迄歩き、国分寺駅から巣鴨に帰宅されたそうです。

当時の鉄道は、国分寺駅が終点の時代で、上野の芸大に通うのに、国分寺から汽車で二時間掛けて通った。国分寺駅から自宅迄、八町程の道を歩くのが楽しく、途中にカジ屋や用水に鍋や釜が浸っていた。

生活では、早春の空っ風や井戸水不足で苦労し、冬は風呂桶に雪を詰めて沸かした。

家の前の畑には、ヒバリ、ウグイス、鷹が飛んで来て木の實をあさっていた。転居して40年も経ると、近くにマーケットなども賑わっていた。私の家だけだったピアノの音が四方に聞こえる環境であった。（昭和38年12月10日読売新聞三多摩版掲載）

驚異の数の作曲作品

信時潔作曲全国校歌一覧表によると、信時が作曲した校歌は、全国の小学校から大学迄約900校に及び、東京大学、お茶の水女子大学、慶応義塾大学等の有名大学や北は北海道大学から南は鹿児島大学迄の大学と高等学校の中では、開成中・高等学校、灘中・高等学校の名門高等学校で今でも歌い続けられ、膨大な校歌を作曲されている。

特に、早慶戦の時にエール交換で良く歌われた慶応義塾塾歌である、資料によると「塾歌の作曲にあたっては、大阪に育ち郷土に御縁の深い福沢先生を敬慕し来った私は、往年塾歌作曲の委嘱を受け、富田正文先生の歌詞を読んだ時、人知れぬ感動を憶えた。

曲は殆ど一気に出来上がり、百年祭の時に堂々たる大合唱を聞いて、作曲して我が子の盛宴に列る如き思いがした。」と記されている。（塾歌は昭和15年作）

又、国分寺では、小学校一小から四小迄と中学校では一中、二中の六校の校歌を、作詞土岐善麿とのコンビで作曲し、学校行事の入学式や卒業式、運動会、学校祭などで歌い継がれている。

校歌の他の作品には、皇室奉祝歌や社歌、歌曲「紗羅」、合唱曲「あかがり」、「紀の国の歌」、ピアノ曲「木の葉集」。更には、今でも歌われている文部省唱歌「一番星みつけた」「電車ごっこ」等は子供の歌として光っています。又、戦時中の「海ゆかば」は格調高く、万葉集とバッハが結びついた讃美歌のような鎮魂歌と云われています。

長女熊谷はるの話によると「メモを見ながらピアノを弾き、時々、小声で歌いながら作曲していた姿、校歌が出来上がって自分の曲が声になり、又、音となって演奏されるのを聴くのが一番嬉しい。」と父が話していた。次号に続く

◆田中康義（S35・政経）

作曲家
信時（のぶとき）　潔（きよし）

講演会で父、祖父を語る

熊谷はるさんより一言

信時裕子さん

協力：国分寺市教育委員会、本多公民館元館長　中森美都子参考資料：国分寺市刊行物、Oh!Enkaの会

協力：国分寺市教育委員会　峯岸桂一氏、参考資料：国分寺市刊行物より

第六回　国分寺寄席　開催後記

9月6(火)台風10号が日本海に抜けて関東地方は朝から好天となった。午前11時いずみホールには、寄席開催委員が全員揃い各担当の任務につき会場内外の準備は万端遺漏なく進められていった。

12時半には客も十数人並び始めた。この日は思いのほか陽射しが強くなり、ロビーに入ってもらうよう会場係りの機転で客の誘導を開始したのは好判断！また、馬生師匠からの申し出により5分早めて開始して欲しいとのことで急遽13時25分、清水会長の開会の辞、国分寺市社会福祉協議会会長北原輝久様、国分寺市老人クラブ連合会会長友田光基様の挨拶を戴き、幕開けとなった。

開口一番は、金原亭駒六が『狸の札』を如才にこなしていたように思えた。小狸の恩返しの話だが、札に化けるので狸の札、賽子に化けるのは『狸塞』。もう一人の前座さんの金原亭小駒と共に来年は二つ目に昇進？！期待している。

二番手は、昨年11月に二つ目に昇進の金原亭駒松改め『馬久』(ばきゅう)が『金明竹』を演じた。ご存知与太郎の店番をして居ての失敗話。大阪弁で早口でしゃべる、与太郎には理解できず頓珍漢。この話を昔十代目馬生師匠が紀伊国屋寄席で演じたとき、使いの者の口上がゆっくりで探りながら演っているようで不思議に思ったが、師匠は『高価な品物を売買する商人が早口でものを言う筈はなく、間違いのないよう気を付けながら言うものだろう』との事だった。

落語という芸を考える上で興味深い話ではある。

昨年春に真打となった、金原亭馬玉は、『湯屋番』を演ってくれた。勘当になった若旦那が銭湯で奉公する？寄席で聞く落語では番台から落ちるあたりでサゲるが、馬玉師匠は厄介になっている家の女房に嫌味を言われたり、飯を十分食わせてくれないと文句をいう、念願の女湯見られる番台に上がっても女湯にはまだ誰もいない、いろいろと想像逞しく！？男湯の客が下駄がないと文句をつけると我に返り『そこにある下駄を履いて行って下さい』「それじゃ拙いだろう」『順番に履いて行って、最後の人は裸足で帰ってもらう』歯切れのいい馬玉が滑稽に最後まで語ってくれた。

同じく昨年春真打昇進の、金原亭馬治が『真田小僧』を一席。父親に小遣いをせびるがもらえない子供、そこで母親がまるで他の男と浮気しているような話を父親にする。いいところで『もっと聞きたい？』。随分小遣いを取られた挙句、その相手は按摩さんと判り父親は騙される。子供の知恵が、真田幸村のような賢さに通じているということから、『真田小僧』、馬治師匠は、相手は按摩さんのオチで閉めたが、話の半分であったが存分に楽しめるようであった。

子供をけなしながらも息子の頓知に満更でもないという親バカが見える落語。

二人とも昨年よりひと皮もふた皮も剥けて上手くなっているのに皆が驚いていた。

ここでお仲入り。

さァ、太神楽、翁家和助師匠の独り舞台。ピンマイクでお喋りしながら曲芸を演る、話しながらの芸は難しいものであるが軽妙な語りと共に曲芸を披露する。一昨年から国分寺寄席で演じてくれているが、今年も太神楽かとお客さんが飽きるのではないかと心配したが、大受け！和助師匠の芸が一段と冴えている、お客の反応は上々であったのには、心配したことを大いに恥じる思いであった。

最後は大御所、金原亭馬生師匠の出番。中山会員と江連会員が『いよッ、待ってました！木挽町！』『たっぷり』と大きな声で掛け声を掛ける。馬生師匠もまんざらでもないといった風情で、『掛け声、有難う御座います。この間の末広亭では掛け声を掛けた人が直ぐに出て行っちゃいました』と。

この日の演題は『死神』、女房に叱られながら金の工面をしに出かける男。死神に会って医者になれと誘われる。死神に教わって寿命のあるなしの方法で金を大儲け、それからはお決まりの大散財！元の木阿弥！

この話はグリム童話『死神の名付け親』を基にした三遊亭円朝の作とされる。蝋燭が人の寿命に関係があるというのは、ギリシャの神話のメレアグロスにも遡る世界的に見られる発想に基づき『寿命のろうそく』という日本の昔話にもなっている。

馬生師匠は、その日楽屋に入っても声の調子が悪く、冷房にやられたことを嘆いていたが、流石高座に上がるとそれを感じさせない話しっぷりは見事で、背を真っ直ぐにしてちょいと顎を出すようにして前屈みにして話し始めた。声が出ない時の応急的治療方法は、噺家は皆心得があって、我が友参游亭呑兵衛こと野部明敬君の師匠、三遊亭游三から教わった方法だと知らされた。

最後の下げのところまで聞き手を引き込んでゆく師匠の語り口に、客は皆一様に蝋燭の火を見つめる様子で、息を潜めるかの雰囲気であった。

最後は茶番、いつもの塩原太助『青の別れ』、同じ茶番をやっているのに大受け、毎年ちょっと違う感じの面白みがある、客は手をたたいての反応！！

そして定番の大喜利も盛り上がり、七人揃ってのかっぽれ踊りに観客一体となって手拍子、満足の笑顔、笑顔、笑顔！！！

閉会の挨拶に野部明敬副会長が一席小話を披露、また観客は笑いのうちに一本締め！第六回　国分寺寄席を無事終了した。

(眞宅康博)

WASEDA NEWS

2016年HCDと稲門祭
お帰りなさい！心のふるさと、早稲田の杜へ

2016年のホームカミングデー・稲門祭は10月23日(日)に開催されました。HCDは大濱信泉第7代総長が、アメリカの大学には校友が心の故郷である母校を慕い、発展に助力するため、年一度家族連れで訪ねる慣行を知り、これに倣い1970年に第1回が開催されたものです。

2016稲門祭のテーマは、「Welcome to Waseda Wonderland〜人・国・時を超える、進取の聖地〜」です。今や日本で最も国際化を進めている大学として、世界の様々な国と地域の人々が集う、知と文化の集積地となっており、「進取の精神、学の独立」は永遠のアイデンティティ・指針です。グローバル化を数字で見ると、外国人留学生4,603人、海外への派遣留学生は704人と全国1位です。稲門祭は大隈講堂前のオープニングセレモニーに続き大隈塾スペシャルでは田原総一郎をモデレーターに「ワセダの躍進〜2020東京オリンピック・パラリンピックを目指して」、「世代を超えたワセジョの魅力」、「大沢悠里のゆうゆうワイドの30年」、「介護を快護に変える」、「LGBTとALLYのWA」、「WASADAforKids」、そして恒例の稲門音楽祭、また大隈庭園内パフォーマンス、ドリンク・樽酒コーナー、記念品販売などなど大盛況でした。

国分寺稲門からは舘外博、吉松峰夫が運営/実行委員として参画、記念品抽選会立会に中村俊雄、野部明敬、眞宅康博、黒田啓之、清水元、大橋忠弘がサポートしました。最後に稲門祭記念品販売(利益金は全て奨学金に充てる・¥400,000/学生1名)については、当会の割当販売目標を達成出来ましたこと、会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

(清水　元)

美酒早慶戦に参加して

初めて「第6回美酒早慶戦」なるものに参加した(2016年9月3日(土)、コートヤード・マリオット銀座東武ホテル、主催 ： 美酒早慶戦実行委員会)。

主催者によると、「美酒早慶戦は早稲田大学出身と慶應義塾大学出身の各蔵元が厳選した出品酒を参加者が利き酒し、「蔵元出身大学対抗」という切り口で勝敗を決するとともに、蔵元さんと参加者との交流を図るイベント」で、併せて「チャリティの収益金を東日本大震災の被災児童支援にあてている」そうだ。

さて今年は、68蔵(早稲田31、慶応37)なので、「出品酒リスト」の注意書きにも記してあるように、「10ccずつ試飲しても全蔵で4合近くに!」。お酒は大好きだが、強くもなく弱くもない私にとって、昼間で4合はキツイ。そこで一計を案じた。リストには、日本酒の分類でいう、純米酒、特別純米酒、吟醸酒、大吟醸酒、純米大吟醸酒、が出品されているが、貧乏性の私としてはここぞとばかり、世間でいう日本酒の最高級品即ち高価格品、純米大吟醸酒に狙いを定めた。数えてみると68銘柄中30銘柄、これならせいぜい2合だ。自分の足で帰宅できる、さあ遠慮なく飲もう！いや利き酒しよう！

私の好みは純米酒だ。昨今醸造アルコールを添加し、低温・長時間かけて発酵させて吟醸香に富む吟醸系の清酒が好まれているが、やはり醸造アルコールを含まないほうが良い。玄米を削りに削った大吟醸は少しもったいない気がするが、純米大吟醸は最高と言える。

利き酒後、1、2、3位を投票する。自分の舌で選んだつもりだが、つまみを食べながら飲むテーブルは早慶分かれているし、蔵元との交流もどちらかに偏る。

依怙も出ようが、参加者160人の見識を信じよう。

結果は、総合点、僅差で早稲田勝利!　対戦成績は、3勝3敗の五分となった。

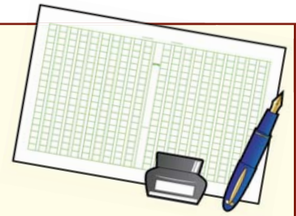
1 位　「陸奥八仙　大吟醸」　(青森県　八戸酒造　慶応)
2 位　「エクストラ大吟醸　浦霞」　(宮城県　佐浦　慶応)
3 位　「獺祭　純米大吟醸磨き二割三分」　(山口県　旭酒造　早稲田)

以下発表なし。

うまい酒を飲み、応援にかこつけて大騒ぎが出来る!

参加費1万円は少々高いが、勝敗を楽しみ且つチャリティにも協力でき気分爽快というところ。来年はもう少し飲んでも良いかな。

(野部明敬)



小説の中の国分寺

殿ヶ谷戸公園

大岡昇平の代表作の一つに、「武蔵野夫人」という小説がありますが、この小説、国分寺とその周辺を舞台に書かれた恋愛小説として有名です。この小説の書かれたのは、昭和20年代で、当時、作者は小金井に住んでいて、国分寺周辺をよく散策していたようで、我々には馴染みの深い場所が随所に出てきます。小説の第1章のタイトルは、「ハケに住む人々」で、中ほどには「恋が窪」という章もあります。小説の時代設定は戦後間もない昭和22、3年頃とのことですから当然かも知れませんが、この小説の中では、国分寺周辺が、今では考えられないような、武蔵野の自然が残るのどかな田園風景の広がる土地として描かれています。

小池真理子の作品に、「狂王の庭」という長編小説があります。これも国分寺にある大邸宅と庭園を舞台に繰り広げられる恋愛小説です。時代は「武蔵野夫人」より少し後、昭和27年頃になっています。これら小説にあるような情景も都市化とともに大きく変貌してゆきます。昔からこの地域に住んでいる人によると、都市化が急激に進んだのは、昭和40年代中頃からではないかとのことです。

城山三郎の「毎日が日曜日」という小説、商社マンの転勤や定年を書いた小説で昭和50年代のはじめに出版され、当時のベストセラーになっていますが、この小説に国分寺が登場します。大手商社に勤務する主人公の自宅が、郊外の国分寺市という設定になっています。長い海外勤務を終え東京に戻った主人公が京都支店長に任命され、家族（妻、子供2人）を残して、京都に単身赴任します。東京、大阪に比較すれば、京都での勤務は〝毎日が日曜日〟だなと、口の悪い同僚に皮肉られながら、慣れぬ仕事に取り組むことになります。一方、留守宅の国分寺では、長男は小金井の高校に、小学生の長女は高田馬場にある帰国児学校に通学することになりますが、二人とも新しい環境への適応に苦労します。留守宅の設定が国分寺市になったのは、この当時、この地域が都心に通う人たちの代表的な町の一つになっていたということだろうと思います。

椎名誠の著書に「サラバ国分寺書店のオバハ」というエッセイ集があります。これも昭和50年代のはじめに書かれたものです。当時、作者は、サラリーマンで小平市の津田町（津田塾大の近所）に住み、国分寺駅を経由して、都心に通っていました。毎日利用する国分寺駅、駅前の交番、駅周辺の古本屋、ラーメン屋等での出来事を鋭い観察眼でユーモラスなエッセイにしています。本の題名となっている「サラバ国分寺書店のオバハ」はその中の一つです。この古本屋、駅南口にあったそうですが、もちろん現在は残っていません。

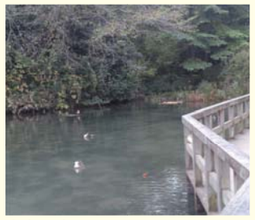
今年のノーベル文学賞はボブ・ディランに決まりました。今年も受賞ならず、多くの村上春樹フアン（ハルキスト）がガッカリしました。同氏は早稲田大学（文学部）在学中に国分寺南口にピーター・キャットというジャズ喫茶をやっていたことがあり、国分寺には縁がある作家です。代表作の一つ、「ノルウェイの森」にも国分寺は登場します。主人公のガールフレンドは武蔵野の外れにある女子大に通い、国分寺のアパートで一人暮らしをしている、という設定になっています。

このように、国分寺は過去いくつかの小説の舞台として登場しています。急速に都市化が進む中でも、何となくローカルな所が残る、この町の持つ、歴史と雰囲気が小説の舞台になりやすいのかも知れません。

（青木壯司）

恋ヶ窪駅方面を望む

恋ヶ窪村むかしの用水


真姿の池

なぜディランにノーベル文学賞!?

「なぜ今ごろになってディランに授賞 ?! 」ー。ノーベル文学賞が米国人シンガー・ソング・ライターのボブ・ディラン氏（75）に贈られるとの報道に接した瞬間、ポップス好きの誰もがそう思ったに違いない。もはやディランは過去の人という風評が行き渡っているからだ。カラオケでピーター・ポール・メアリー（PPM）を歌う人はいても、ディランを歌う人は絶えて久しい。

最近のディランの日本公演の客席を見渡しても、会場にたどり着くのがやっとこさっとこ、という高齢者がほとんどだ。受賞はきっとディラン自身にとっても不意をつかれた思いだったことだろう。受賞が発表されて3日たった9月17日現在でも、ディラン自身の受賞へのコメントは寄せられていない。受賞を喜んでいるのか、迷惑がっているのか皆目分からない。だから12月の授賞式のスピーチがどんなものになるのか関心が集まっている。

選考に当たったスェーデン・アカデミーのサラ・ダニウス事務局長は「古いアメリカの伝統を踏まえて、新しい詩的な表現の確立に寄与した」と授賞理由を述べた。本当にそうなのだろうか？極めて疑わしい発表だ。それなら先輩格のウディー・ガスリーはどうして授賞されないの？コード進行を無視したディランの歌は表現として授賞に値いするの？ ーと、聞き返したくなってしまう。強拍弱拍のリズムを顧みず、かといってシンコペーションでもない耳障りな歌唱だ。その上、しゃがれた声でシャウトする。時には滑らかな発声を操ることもある。まさに変幻自在で前衛的に過ぎる表現だ。これで大衆に受けいられるのだから、素人のぼくらにとって理解の余地はない。

代表作といわれる反戦歌「風に吹かれて」はPPMが歌ってヒットさせた。歌詞はストレートに戦争反対を訴えている。ホワイトハウスに招かれたPPMがジョンソン大統領の前で「風に吹かれて」を披露したことがあった。ヒットパレードを席巻したこの曲を、直接聞いてみたかった大統領ではあったが、歌詞の内容にいたたまれず、演奏の途中で退席したという。当時、そんな新聞記事を読んだ記憶がある。今となっては嘘か真実か確かめようがないが、あり得ることのように思える。

ディランはすでに米国内のエンターテイメントを顕彰するグラミー賞、ピュリッツアー賞も手にしている。だから今度も授賞式に出席するだろう。だが、あまりに現実のディランとはかけ離れた授賞理由だっただけに、彼のスピーチはチグハグなものになってしまうことだろう。だったら、ノースピーチか、単なる授賞への謝辞で終わらせるかだ。

かつてイギリスで行われたゴールデンディスク賞の授賞式で、ディランは主催者やプレゼンターと目を合わせること無く式を押し通した。「さもありなん。それでこそディランだ」と、世界中のファンから喝采を浴びた。そもそも、政治的なプロパガンダであるメッセージ・ソングがノーベル文学賞に値するのだろうか？

賞金9,700万円を、アフリカやシリアの子供たちの学校建設や、病院の運営資金に寄付するというのなら、受賞する価値はあると言えるかも知れない。

（北川道夫）

株式会社セラミカ
代表取締役
谷田成雄（S31年卒）
東京都国分寺市南町2丁目1の12
電話 042-323-0038
FAX 042-321-7888

IT技術コンサルテーションの
（株）ジャカランタ・アソシエーション
代表取締役： 大橋忠弘（1972年；理工卒）
技術士（情報工学）、
ファイナンシャルプランニング技能士
http://jacaranda.jpn.com/

中国料理「龍栄」
中国 龍栄 料理
国分寺市本多2-3-1
TEL 042-321-0005 042-321-3231
北口より徒歩5分

同好会活動

kokubunji toumon-kai club action

ゴルフ同好会 golf

久し振りにゴルフ早慶対抗戦（国分寺稲門会・国分寺三田会ゴルフコンペ）が開催され、双方13名ずつ、総勢26名の真っ向勝負となりました。

ゴルフ早慶対抗戦

早慶戦と言えば、多くの人は学生・OB時代を通じて専ら応援する側でしたが、この日ばかりは、自らアスリートになる訳ですから目の色が違います。ましてワセダは過去1勝6敗、劣勢を挽回せんと大いに頑張りました。

結果は、個人優勝、2位、BB、BMがワセダ、団体優勝は、僅差でケイオーとなりました。ゴルフと言う競技は、頑張って良し、張り切り過ぎて悪し、の両目が出たという所でしょうか。

前代未聞の大記録が出ました。若林さん（早稲田38商研）のエージシュート（アウト39イン34トータル73）の快挙です。新ペリアでマイナスハンデ1.2も初めて見ました。懇親会は地元、龍栄で双方頑張りを称え、大いに盛り上がりました。

平成28年7月12日（火）、昭和の森ゴルフコース（par72、5,569y）
優勝舘氏（早稲田48政経）、2位久保田氏（早稲田44理）、3位小林氏（慶応49工）

＜今後の予定＞
平成28年11月4日（金）　早稲田大学校友会ゴルフ大会　久邇CC
　　国分寺稲門会から1チーム参加予定
平成28年11月11日（金）　第42回国分寺稲門会ゴルフ　西東京GC

時間的に間に合うかどうかわかりませんが、参加希望の方、是非ご一報ください。来年も鋭意企画中です。

（野部明敬）

KTB（国分寺稲門会ボーリング同好会） bowling

当会は国分寺パークレーンオーナーの故林久仁於氏の格別な取り計らいで、国分寺稲門会の同好会をリードするような活動をしていましたが、国分寺会場が閉鎖され、東大和駅前のボーリング場に移転した今も、引き続き林さんの遺志を継いで楽しんでいます。

毎月2回、原則第二、第四日曜日、東大和駅前のボーリング場に、朝8時に集合、早起きと健康維持と若返りの為などと欲張り、家族ぐるみで、愛好の仲間と楽しんでいます。

東大和駅前のボーリング場にて

練習会場は、東大和駅前ですので、国分寺駅を7：30前に乗れば7：50には着きます。予約なしで、3ゲーム600円と、とても割安の料金設定になっています。

今年は嶺さんが体調を崩されて、寂しい時期もありましたが、9月には復帰。その第一戦で160を超えたのには恐れ入りました。黒川さんと廣田さんは、順位が順番に入れ替わります。申し合わせているわけではないでしょうが、うまくいくものです。

定例コンペ、暑気払い、忘年会なども毎年開催しており、和気あいあいの楽しい仲間達です。

あまりスコアを気にしないこと、記録よりも健康第一のクラブですから、都合のつく方は参加してみて下さい。

参加者随時歓迎！下記迄ご連絡お待ちしています。
連絡先（嶺　　仁）Tel／Fax：042-324-8600
　　Email：hitoshi-mi@jcom.ne.jp
（岩崎　明）Tel／Fax：042-321-1563
　　Email：23akira@sokei.co.jp

（岩崎　明）

スキー愛好会 ski

10月の下旬にもなると紅葉が終わりをつげ、樹木は冬の佇まいを始める。
広葉樹、針葉樹ともそれなりの身の処し方を始めるようだ。
人々は自然のたたずまいを享受し生きるようだ。
我々スキーヤーはことのほかこの摂理を肌身に感ずる。白銀の世界に思いをはせ俗界の喧騒から離れ自然との付き合いを享受する。
枯れすすきの平原が白一色に変わる。何と素晴らしい景色かなと何時も感ずる。
サアー滑ろう雪原を、最近は斜度が気になる。80歳を過ぎた老人には初心者用のゲレンデで充分だ。
頂上に立つと身震いするようだ。若い時はそんな事がなかった。
生まれ育った妙高高原の斜面でも然り。
年相応に何時までも楽しみたいものだ。止められないスキーの楽しみだ。

（山賀　理）

麻雀同好会 mahjong

平成13年9月に発足した麻雀同好会麻雀大会は本年9月に90回を迎えました。光陰矢のごとし、年6回開催15年経ちました。大会は近隣稲門会の方も加え5卓20人で開催、小柴氏が優勝しました。大会終了後の記念パーティでの優勝者の一言は50年振りで牌を握り、7回目での栄冠ということで、昔の実力がうかがわれます。

月例会は5月廣田昌子、7月金田一淑子さんが優勝され、女性の活躍が目立ちました。
次回91回は11月10日です。
第4回六地区―国分寺・小平・東村山・西東京・立川・小金井―合同麻雀大会は8月に開催され、国分寺は5位と不振でした。次回第5回は平成29年2月で、リベンジしたいと思います。
何十年振りの方、初心者の方、女性の参加をお待ちしています。

（廣田　廣）

90回大会

7月例会

ハイキング愛好会 hiking

秋のハイキング（11月9日（水））は当愛好会7年振りの高尾山です。ご無沙汰している間にこの山は大分変りました。年間250万人が押し寄せると言われており、1日当たりにすると実に毎日7000人が訪れる計算になります。

9月下旬の1日、下見を兼ねて6号路から稲荷山コースを歩きました。平日にも拘わらず、老若男女で相変わらずの賑わいでした。たかが高尾山、されど高尾山ですね。

今春は5月20日に12名で飯能市の阿須丘陵に行きました。旧上州道尾根道登山口を9時に出発し、あさひ山展望公園到着まで約2時間半の行程です。その後、飯能駅前の中華料理店で飲食、歓談した後、午後2時過ぎに散会しました。

初めての方もお気軽にご参加ください。コースは里山や低山を中心に無理なく歩ける様、工夫して決めています。予定は毎年4月頃と10月頃にホームページに掲載いたします。

（山田　孝）

あさひ山展望公園

阿須丘陵

カラオケ同好会 karaoke

カラオケ同好会に東村山より参加して11年、聞けば発足は古く、国分寺パークレーンの一室で、同好の士数名がアナログ装置でも、好きな歌を歌い結構楽しんでいたらしい。

その後はいろいろ紆余曲折があり、現在に至っています。

そして残念ながら何人かの会員が三途の川を渡ってしまったが、相変わらず黄泉の国で楽しく唄っていることでしょう。

この会は毎月第一金曜日に開催、最近は会員も増えてきたので、二部屋（純粋に歌を楽しむ人と、バッカスの会宜しく楽しむ人）に分かれて開いています。

最初に清水会長のリードで、当月に関わる趣向を凝らした行事で幕開け、次に誕生月の会員にハッピーバースディとケーキで祝い、プレゼント贈呈、その季節に相応しい歌を全員合唱します。

カラオケはワークシェアーよろしく、その歌をチョイスした人が一番、曲を知っている人、歌いたい人が二番と、それぞれ個性のある歌声を響かせる、将に全員参加の歌会で盛り上がっています。

去る10月7日の会は、不肖、小生の100回出席記念（初参加17年7月1日）を盛大に祝って頂き、立派な記念のティーカップセットに加え、皆様から心の籠った寄せ書きを戴き、私の生涯の思い出となりました。

これも清水会長の魅力ある会の運営と、世話役の吉田さんの女性ならではの気配り、そして会員皆様の心温まる雰囲気作りのお蔭であると感謝申し上げます。国分寺カラオケ同好会の益々の隆盛を祈願致します。

（松永常尚・東村山稲門会）

10月例会

カラオケ風景

松永常尚・東村山稲門会

同好会活動

kokubunji toumon-kai club action

グルメ・作って食べよう会

gourmet

腕利きの料理人は、こっそりと他の店に行ってその味を確かめ、腕のこやしにすると言われております。わが同好会でも「自分で料理して食べる」ことを主題としておりますが、「腕を磨き上げるため」と称して、実はサボルことを含めて外食を実践しています。

4月の同好会合同伊豆旅行で昼にはアワビ・サザエなどの海鮮バーベキュと美酒を嗜み、晩餐では、刺身・金目鯛煮つけ・カサゴ唐揚げなどの宴会料理を堪能しましたが、外食の魅力に飽き足らず、8月に国分寺稲門会初の納涼会を企画しました。屋上ビアガーデンで「夏の夜の集い：星降る街角で夜空を仰ぎ、美酒・美食とともに真夏の夢を語る！」との意気込みで開催しましたが、大雨洪水警報が発令されている中、急遽、場所を階下の焼き肉店に変更し開催しました。清水会長の挨拶、谷口さんの活気ある乾杯で宴が始まり、前菜盛合せが運ばれてくる前には、すでに早くもほろ酔い気分になりワイワイガヤガヤと笑顔が広がりました。焼き肉が始まるころには酔いが進み、あっちこっち動き回る徘徊者ばかりで、誰がどこの肉を食べたのか、どのグラスで飲んだのか判らない状態です。いつの間にか女子群は、奥のテーブルに集結し、密かに大量の冷酒を何杯もおかわりして飲み乾しておりましたが、秘密会談に熱中しているせいか、ロレツのまわらぬ男子群に比べてはるかに冷静沈着で、くしくも、リオ五輪開幕の最中、金メダルラッシュの「女子強し！」の謎が解けた気がしました。夜空の星ではなく、天井の電飾を仰ぎながらの納涼会でしたが、真夏の夢と日頃のウサを語りあかして、廣田さんの挨拶、原さんの一本締めで終宴となりました。

10月30日には、안녕하세요（アニョハセヨ）！の掛け声とともに、「국요리（ハングギョリ）<韓国料理>を楽しむ」をテーマに、作って食べる会が開催されました。

（中山斌雄）

町歩きの会

town walk

町歩きの会は文字通り、①歩くことでの・健康維持／増進②その町の歴史、文化を知る・勉強／研究③その町の名物、美味しいもの、うまい酒を味わう・味覚の鍛錬、以上の3つがラフな目的です。

この春は貸切バスで国分寺駅に集合し、同好会合同伊豆旅行を実施しました。地元のガイドさんと南伊豆稲門会のご案内で、下田の町を歩きました。澤村邸では有名な語り部の講話と唐人お吉の踊り、ペリーロードの散策、了仙寺の見学、開国博物館等訪問し、宴会では地元の清酒「下田美人」を堪能しました。

今秋は11月22日（水）国分寺駅南口集合・「横浜（今昔）町歩き」と題し、洒落た西洋館の建つ・山手地区、港の見える丘公園、洗練された大人の街・元町、最大規模のチャイナタウン・中華街での飲茶、散策好適の・山下公園、横浜開港資料館及び横浜稲門会のご協力で、西川武臣副館長様の講話、氷川丸見学、昭和2年建造のクラシックホテル・ニューグランドホテルでのティータイムなど、異国情緒、美食、歴史と古きゆかしい横浜を満喫して頂きます。

（北原照久ブリキ博物館、大仏次郎記念館も検討中）

詳細は最終確定していませんが、坂の多い町歩きですので、脚力に自信のない方も参加頂けるように、国分寺発着、貸切バスでの旅行です。多数の会員・家族の皆様の参加をお願い致します。

申し込み：バスの定員は25名、先着順になりますので、幹事までお早目ご都合をご連絡下さい。

（日置憲二郎）

山手地区

中華街

国分寺サロン

salon

本会は会員の為のサロン・談話室として、会員／外部の方の持てる知識・特技などをご披露頂き、少しのお酒で楽しい時間を共有することを目的に立上げました。出来れば会場を特定し、定期的に開催する事を志向しています。

昨年9月には世界で一番飲まれている飲料・紅茶のセミナーがJTAのシニアティーインストラクター、常務理事、前専務理事を講師として、会員／家族と近隣稲門会の女子会を中心に53名で開催され、今年はジャズピアノコンサートを側面でサポートし、多くの会員家族が参加して、本場ジャズとお酒を国立のライブハウスで楽しみました。

近々の予定としては、年末に“クリスマス”に合せ、コンサート／皆で歌う会を企画中です。

詳しくはHPなどでご案内致しますので宜しくお願致します。

（清水　元）

国分寺句会

haiku

「街ながすをんなおどりや風の盆」

はい、この句の作者はどなたでしょうか？ああ、○○さんでしたか。『風の盆』という季語には、街を流している踊り子のイメージがその中に含まれています。だから上五・中七の『街ながすをんなおどりや』の十二文字は不要な説明です。俳句はたった十七文字の世界、勿体ないことをせずに、この十二文字を使って踊り子や街並みの様子などを入れてみてはどうでしょうか。」

これは、9月17日に本多公民館の会議室で開かれた国分寺句会9月例会の一場面です。指導にあたるのは細見遒子先生。現在、清瀬市にある俳句結社「隗（かい）」の主宰をされています。

この日の句会の参加者は欠席投句の方もふくめて13名。句会に先立ち、細見先生から「俳句の基礎知識」のお話がありました。教材として配られたのは、俳人・角川源義の第一句集「ロダンの首」に寄せた石田波郷のあとがきの一部です。

因みに、俳句結社「隗」の創始者である大山雅由さんは早稲田大学国語国文科のご出身で、7年前に清瀬市で石田波郷没後四十周年の記念俳句大会を発足させました。残念なことに、3年前に急逝されましたが、俳句結社「隗」と石田波郷俳句大会は奥様の細見遒子先生によって継承されております。

当会の黒川幹事長は大山雅由さんの門下生、その縁で「国分寺句会」の発足につながりました。細見遒子先生を講師にお迎えして第一回国分寺句会が開催されたのは、2014年11月21日で、その日は奇しくも大山雅由さんの一周忌の翌日でした。

当句会の会員は現在16名、内訳は稲門会が国分寺10名、清瀬・立川各1名、一般4名です。毎月第三土曜日の午後に本多公民館で開かれる定例句会には、常時10名から12名が出席、欠席投句の方をふくめると常に全員が参加しているという盛況ぶりです。

一般に句会は8～10名が理想的といわれます。11月で3年目に入り、発展・充実を重ねる当会ですが、現在は入会希望者があってもお断りをしなければならないのが唯一残念なことです。

（吉松峰夫）

国分寺句会 10月例会

国分寺句会 10月例会

国分寺句会　近詠一人一句

水澄むや河童伝説語り継ぐ	黒川　清虚（国分寺）
雨あがり飛びたつ蝉のいのちかな	内田　博司（国分寺）
しぎ焼きのとろける味やサファイア婚	清水　星人（国分寺）
眠る子にしばし休める蜻蛉かな	眞宅　泉舟（国分寺）
白き街陽気な妻の夏帽子	舘　爽風（国分寺）
親世井に響く鼓や水澄めり	千原　延居（国分寺）
運動会幅を利かせるＪポップ	野部　明敬（国分寺）
家ごとに石橋ひとつ水澄める	吉松　舞九（国分寺）
ダンディに生まれ案山子の頼りなし	梶原　由紀（国分寺）
踏ん張つて叩く太鼓や子等の秋	大島　薫（清瀬）
母の日や放蕩息子帰りをり	佐竹茂市郎（立川）
曼珠沙華一つ流人のごとく咲く	押山うた子（武蔵村山）
艶つやの萌黄ふた葉の新茶かな	藤木ひろみ（中野）
父祖眠る紙漉きの町水澄めり	中村　憲一（豊島）
◆講師	
稲刈るや弥彦角田を攻むるごと	細見　遒子（清瀬）

国分寺稲門会に入会し同好会活動を共に楽しもう

同好会活動幹事のご紹介

同好会名	氏名	代表者連絡先
ゴルフ	日置憲二郎	042-575-3518
ゴルフ（早慶対抗）	野部　明敬	042-321-2757
ボーリング	岩崎　明、嶺　仁	042-321-1563
スキー	山賀　理	042-502-8693
麻雀	廣田　廣	042-323-2651
ハイキング	小田切晏彦	042-321-1096
同	山田　孝	042-301-8271
カラオケ	清水　元	042-321-3310
同	大橋　忠弘	042-576-7346
同	江連　孝雄	042-325-7510
グルメ	中山　斌雄	042-576-9630
同	中村　俊雄	042-313-8442
町歩きの会	清水　元、小野洋一郎、山田　孝、中山　斌雄、日置憲二郎、中村　俊雄、吉松　峰夫、野部　明敬	042-321-3310
国分寺サロン	野部　明敬、清水　元	042-321-2757
国分寺句会	黒川　清知、吉松　峰夫、舘　外博、野部　明敬	042-301-3581

土地・家の売買等不動産についてお気軽にご相談下さい。
創業 47年
株式会社 常栄
東京都知事（14）第11134号
代表取締役常見太郎（昭和61年卒）
東京都国分寺市南町3-23-3
TEL:042-323-6664

黒田社会保険労務士事務所
社会保険労務士
黒田啓之（S61卒）
〒185-0024東京都国分寺市泉町3-33-16-201
TEL.042-300-0305 FAX.042-300-0306
http://www2.odn.ne.jp/~seven
E-MAIL seven@pop06.odn.ne.jp

ご近所です。お気軽にご相談ください。
● 親が亡くなったのだけれど？
● 孫に贈与したいのだけれど？
● アパートの申告はどうするの？
● 土地を売却したいけれど？
税理士法人 横溝会計パートナーズ
〒185-0012 国分寺市本町二丁目12-2
三井生命国分寺ビル6F
TEL 042-321-9583
税理士 横溝 範治（S51卒）
公認会計士 税理士 横溝 大門
税理士 落田 徹
税理士 猪狩 祐介
税理士 内田 雄太